

冬合宿南アルプス：甲斐駒ヶ岳黒戸尾根

◆日程 2018年12月29日(土)～12月31日(月)

◆メンバー L：須田、日比野、岡村、山中、小山田、富田、大村、西山、大塚

【冬合宿 リーダー総括】

2018年の冬合宿は甲斐駒ヶ岳を黒戸尾根から登るルートとなった。無雪期では何度か黒戸尾根から甲斐駒の頂上を踏んでいるが積雪期は私も初めてであり、会の山行としても記憶がない。今回のメンバーは新人からベテランまで9名が参加し冬合宿としてはかなりの人数であった。

ルートを詳細に調べてみると、例年年末は積雪が少ないが、積雪量が多いとかなり技術的にも体力的にもハードなコースであることがわかった。ただでさえ長大なルートに加えて梯子や鎖場も多く、過去にも死亡事故が毎年のように発生していた。

年末に大寒波が襲来することも長期予報から予想されたのでワカンや確保用のロープや簡易ハーネスなどを準備することにした。装備の軽量化との兼ね合いで悩ましかったが、安全を確保することを最優先に考え準備を進めた。結果としては予報に反して好天に恵まれ積雪量も例年通りの少なさであった。ワカンや確保用のロープを使用することもなく、全員で甲斐駒ヶ岳に登頂することができた。

幸運にも恵まれたが、初日の7合目までの長時間での重たいザックを担いでの行動は寝不足の身体に堪えたであろうし、2日目には7合目からの登りで強風に煽られ、登頂をあきらめて何組かのパーティーが下りてくる中登り続けた結果、風が止んで頂上を踏めたことなど冬山の厳しさを存分に味わうことが出来たのではないだろうか。この1年の集大成としての冬合宿に多くの会員が参加できたことはとても素晴らしいことだと思う。(記：須田)



【山行報告】

12月29日(土) 天候：晴れ

2018年の冬合宿。11月の例会後の咲らで山田(日)さんに「岩トレ結構、でも山を歩かないとね。」の流れから「甲斐駒は北沢峠じゃなくてやっぱり黒戸尾根だよ。」とお聞きしたことが頭に残っており、気を引き締めて臨んだ。車割りの都合で前夜発(須田、日比野、富田、大村)組が先行して道の駅はくしゅうでテント泊、当日未明発(岡村、小山田、大塚、西山)組が尾崎S.B.していた山中さんと合流した。

尾白川溪谷駐車場で全員集合、上ったばかりの朝日がさしこむなか共同装備を分け、出発。竹宇駒ヶ岳神社で無事を祈願し、つり橋を渡りきったところに「定員5名」の立札が寝かせてあった。あとの祭りである。尾白川溪谷分岐を見送り登っていく。日比野さんのアドバイスで一枚脱ぐ。汗が出ず、冷えにくくなり快適になる。

ほぼ1時間ごとに小休止をいれながら樹林帯を進んでいく。笹ノ平分岐からは大量の落ち葉のラッセルとなる。高度をあげていくとご褒美に展望が開ける。ひだり手に逆光のオベリスクがそびえる鳳凰三山、放射状の山肌がくっきり見える富士山。みぎ後ろを振り返れば八ヶ岳。徐々に雲がとれ、蓼科山から少なめの雪をかぶった赤岳を経て編笠まで南北すべて見えた。

いよいよ刃渡りを通過する。岩のところどころに氷になった雪がついていて緊張で体が硬くなる。その先は苔の目立つ森で目が癒されるが、地面は雪や霜が溶けてまた凍り、つるつるになっていて気が抜けない。刀利天狗(とりてんぐ)を過ぎ、黒戸山を巻いていったん下る。途中でアイゼンを装着し五合目の平坦地へ。上に「下山路」、下に「登山路」の標識があるのがおかしい。

いよいよハシゴの連続。橋も渡る。実のところこのあたり、細かい記憶がない。ひとつひとつをクリアするのに集中し、記憶が断片的で連続していない。クサリが続きちいさなステップ状の岩にアイゼンで乗る。上から須田さんが「その環をつかんで」と指示を出してくれる。明後日ここを下るのか?と想像しただけで、まだ幕営地にすら着いていないのに気が遠くなった。「ゴールは山頂ではなく下山」であると初日から痛感した。

そして弱気に筋疲労が追い打ちをかける。垂直方向の移動の連続に、手の力だけでなく足を使うように意識はしたが、それでも上腕と肩を持ち上げるのが難儀になってくる。やがて前を行く2人が「小屋だ」と声をあげ、本日ののぼりが終わったことを知る。行程約8時間、七丈小屋に到着だ。

テント設営後は6人用ダンロップに集まり岡村シェフおすすめのおろしポン酢鍋で夕食。火が炊かれおいしい食事、あたたかいテントは快適だが、事前の忠告が効いているのみならず、今日を振り返り明日のことを考えるとあまり積極的に酒盛りする気にならない。女性2人は先に4-5人用エスペースに引き上げる。21時には5人と4人にわかれ、みな寝袋に入り消灯。

上空の高いところを通る風に加え山肌をなでる風もかなり強く、竹ペグで張り綱をしっかりと効かせているのにテントが揺さぶられ、顔の上に霜がときおり落ちてきた。(記：西山)



CT：尾白溪谷駐車場 7:15 - 尾白川溪谷分岐 7:40 - 笹ノ平分岐 10:00

- 刃渡り 11:50-刀利天狗 12:40-アイゼン装着 13:30 - 五合目小屋跡 14:10
- 七丈小屋 15:30

12月30日(日) 天候：晴れ

夜中も強風が続き、朝になっても変わらず吹いていた。天気は良いが、風のせいで気温は寒い。支度に手間取ったりして、7時出発のはずが30分遅くなる。後々これが良い結果を生むこととなる。雪は降っていないが、強風で積もった雪が吹き上げられて、パチパチ当たる。初っ端から急登、少しガスってきて風も強い。まだ樹林帯だからなんとかなっているが、これで稜線に出て、危険箇所を通過する時はどうなるのだろうと不安になる。空身だから楽なはずなのに、苦手なアイゼンワークに四苦八苦しているとたちまち息が上がりサングラスが曇る。一瞬で凍って前が全く見えない。

雪が付いていない岩が露出している場所は特に気を遣う。上から降りてきたひとと須田さんが話している。強風で、諦めて降りてきたらしい。ところが、進むにつれてだんだんと風が止んできた。ガスがとれ、展望も開けてきた。登りがキツイことには変わりはないが、耐風姿勢をとるほどの風はもうない。梯子や鎖に緊張しながらも、なんとか通過していった。ひとときわ高い岩のてっぺんに剣のようなものが二本刺さっているのが見えてきた。ひとつの



梯子を登ると、目の前の斜面の岩肌が、石仏の群れのように迫ってきた。山そのものを信仰する気持ちが、少しわかるような気がした。風が止んだおかげか、案外時間もかからずに登頂できた。頂上は、さすがに風があり、寒い。しかし360度素晴らしい景色だ。山中さんが、見える山々を教えてください。もっと見ていたかったが、とにかく寒い。すぐに下山する。登りで危険だった箇所は、下りは更に恐い。慎重に足をのせる。登りでは気がつかなかった石碑(?)や石仏や剣が沢山あった。風は収まったままで、ほぼ無風だ。無事テント場まで戻ってくることができた。あのタイミングで風が収まるなんて、実に運が良かった、と言いつつ。支度に手



間取ったおかげだ。アイゼンも外さずに、乾杯のためのビールを買いに、七丈小屋に一同直行する。量が多すぎるのでは、と私は思ったが、口は出さずにおいた。それだけ昨夜、節制していたのだろうし、全員で頂上に立てたことは、朝の風を思うと、それだけ奇跡に近いのだから。

(記：小山田)

- CT:七丈小屋テント場 7:30 - 八合目御来迎場 9:20/9:30 - 甲斐駒ヶ岳 10:00-八合目御来迎場 10:30
- 七丈小屋テント場 11:40

12月31日(月) 天候：晴れ

前日の夜とは打って変わって、全く風のない夜を過ごし、撤収。小屋に泊っている人も多そうだ。朝から続々と頂上へ登って行った。今日は下山するだけなので、荷物は重いが気は楽だ。5合目までは雪もそれなりにあり、アイゼン装着したまま行った。刃渡り少し手前で外す。雪は少ないが、ところどころ凍っていて、なかなか怖い。降りるだけ、などと気を抜いていた自分を呪いながら、気を張っていく。凍っている梯子も侮れない。カッコいい八ヶ岳の眺めで自分を励ましながらか歩く。そして行けども行けども黒戸尾根は終わらない。笹が出てきたから笹ノ平だろう、などと岡村さんが後ろから言うのだが、笹ノ平分岐がなかなか出てこない。凍っている道が終わったと思うと、今度はずいぶんと深くえぐれた道に落ち葉がたっぷり詰まっていて、隠れている石などにつまずく。下りも手ごわい。この長い道をよく登ってきたなあ、と半ば呆れながら、ようやく神社にたどり着いた。お社は新しいしめ縄で、新年を迎える準備がしてあった。奥から出てきた神主さんが、我々にお疲れさまでした、と声をかけてくださった。登らせてもらえたことに感謝し、神様に深く頭を下げた。



(記：小山田)

CT：七丈小屋7：30 - 5合目8：50 - 刃利天狗9：40 - 刃渡り10：20 - 笹ノ平11：50 - 竹宇駒ヶ岳神社13：20

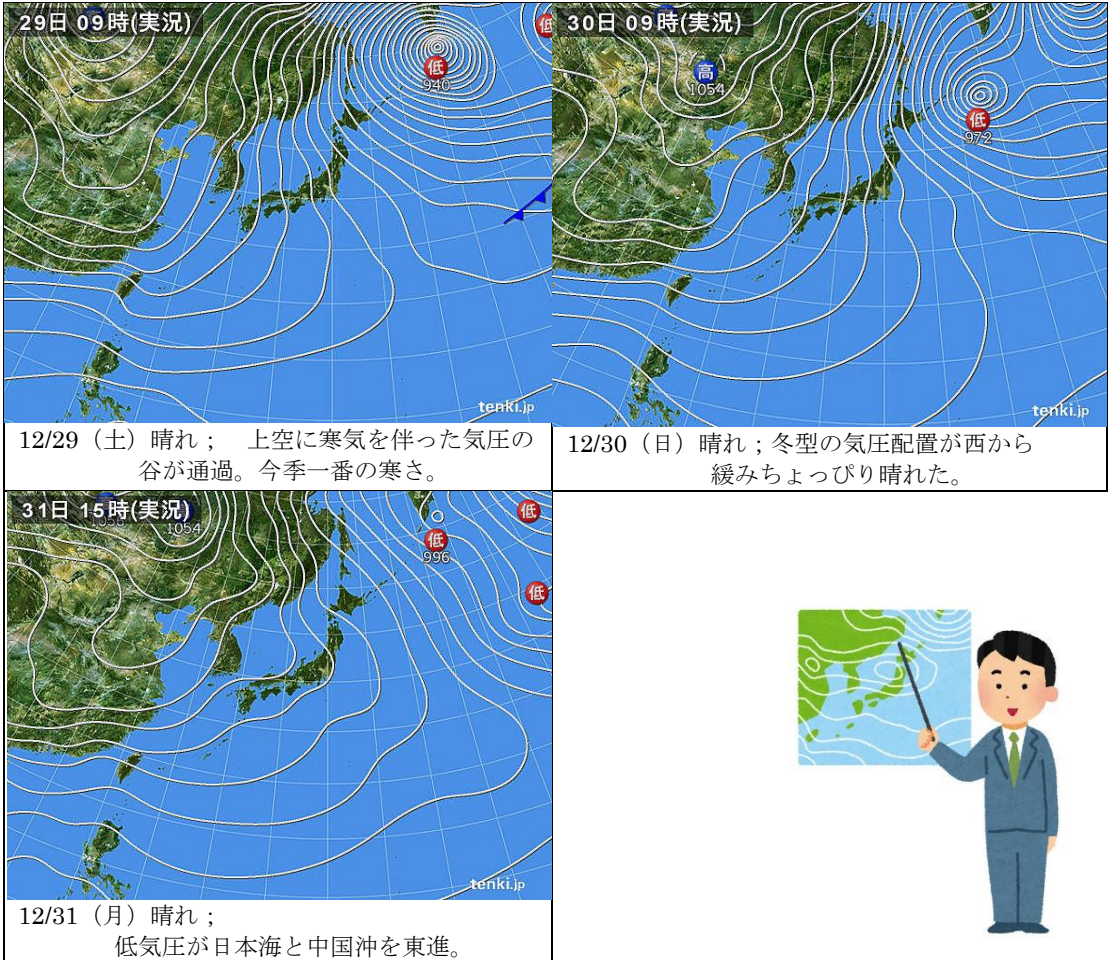
【食糧計画】 (12/29夜、12/30朝：担当 岡村 12/30夜、12/31朝：担当 日比野)

12月29日 夕飯：「ボン酢で食べる水炊き風鍋」
舞茸1袋、しめじ1袋(キノコはほぐして持参)、白菜(刻んであるもの)1袋、春菊1袋、ホウレン草(2束)、超薄切りロース豚500g(軽く炒めて持参)、おでんだし、乾燥椎茸1袋、おろしボン酢1本(360ml)、マロニーちゃん、アルファ米7袋(0.7袋×9人で計算)
12月30日 朝飯：「汁ビーフン」
ビーフン300g、もやし1袋、豪州産粗挽き牛赤身肉200g(炒めてしょうゆで味付けて持参)、塩、中華だし、ごま油(お弁当用のしょうゆ入れで持参)
12月30日 夕飯：「鍋(鶏だし旨塩味・寄せ鍋醤油味)」
白菜、大根、ニンジン、ゴボウ、椎茸1パック、しめじ2袋、油揚げ3枚、鶏もも肉750g、アルファ米2袋
12月31日 朝飯：「ラーメン」
丸ちゃん製麺(醤油豚骨味)7袋、カニカマ10本、焼き海苔18枚

(岡村) 定番鍋に変化を与えるべくボン酢で食べる形とした。ボン酢はさっぱりして、味がまとまりやすい。鍋は肉・野菜の量が難しいが、29日の量は大コップ1杯分、30日の量は2杯分。ビーフンは漢字で米粉であり、いわば長いアルファ米である。ラーメン同様、お湯に入れて戻せばそのお湯をスープにできる。安く軽く調理も簡単、工夫次第で使える食材だと思う。

(日比野) 冬は野菜も肉も生ものを持って行ける季節なので鍋が定番になる。しかし生の食材は重い。今回の山行は黒戸尾根なので、距離も標高差もあり軽量化も考えたが、荷物を背負っての歩行は初日のみなので軽量化はあまり気にせずメニューを考えた。しかし、距離が長い日はやっぱり軽量化を考えた方がいいと感じた。

【気象】 (担当 富田)



以上